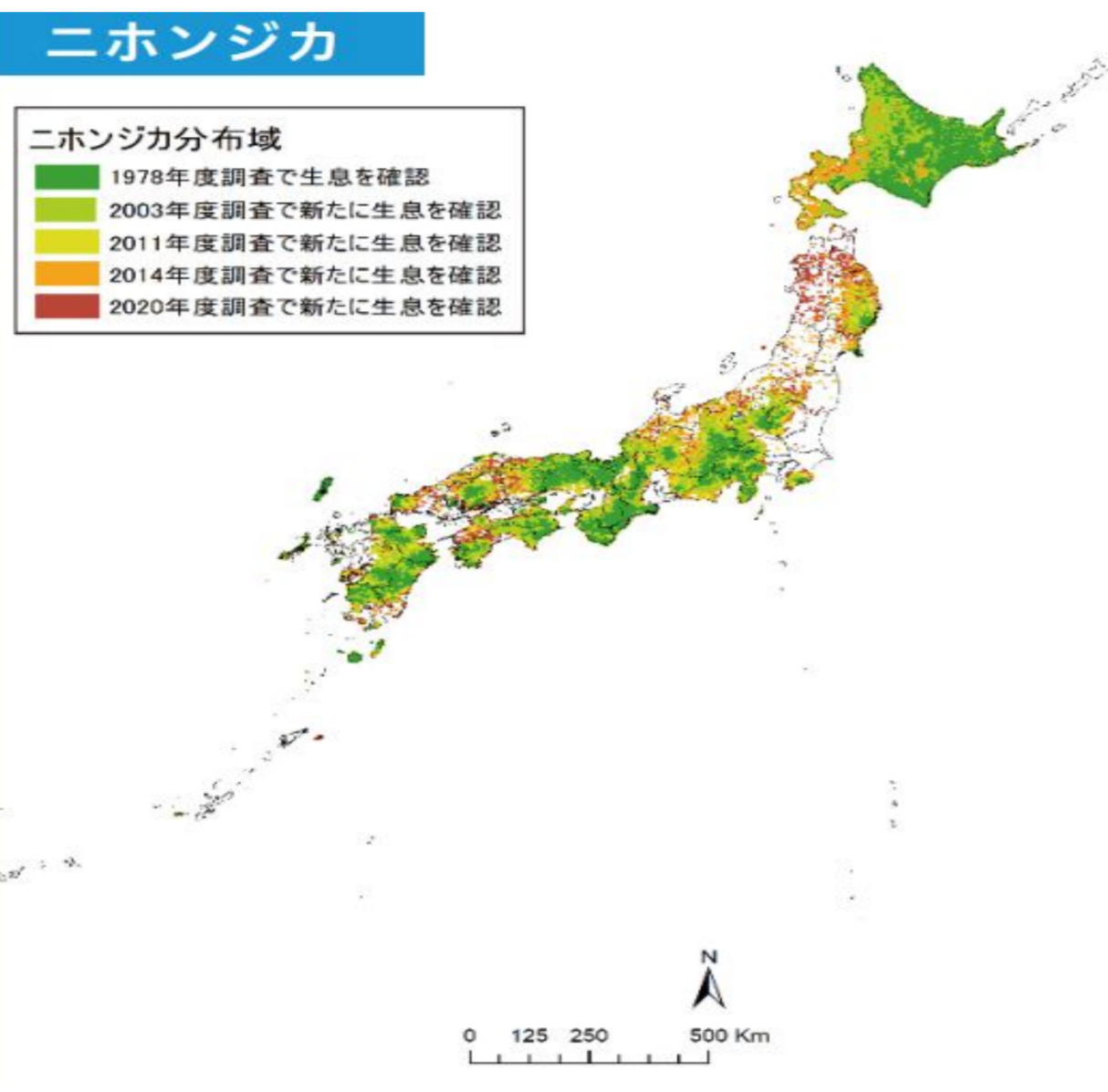
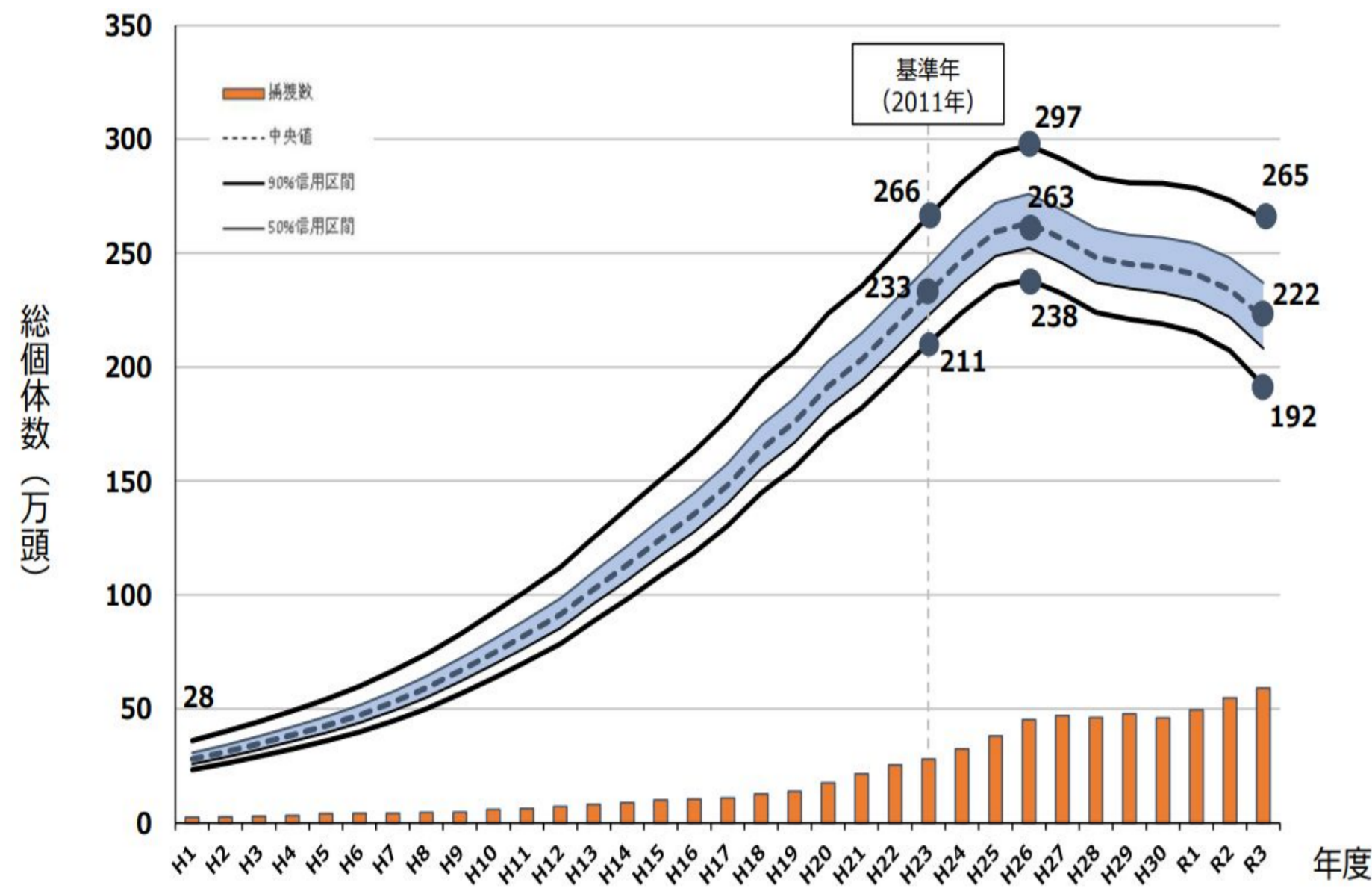


仮説

地球温暖化によって動物の生息数と分布域は変わっているのか。

シカ



- ・左のグラフから、鹿の個体数がH1からH27にかけて増えている
- ・H28からR3にかけて減少

要因

・かつての日本は、シカを捕食するニホンオオカミが1900年代初頭まで生息していたが、感染症の流行や、家畜被害対策の観点による駆除などによって、絶滅。

⇒天敵がいなくなったため。鹿を食べる動物が減った。

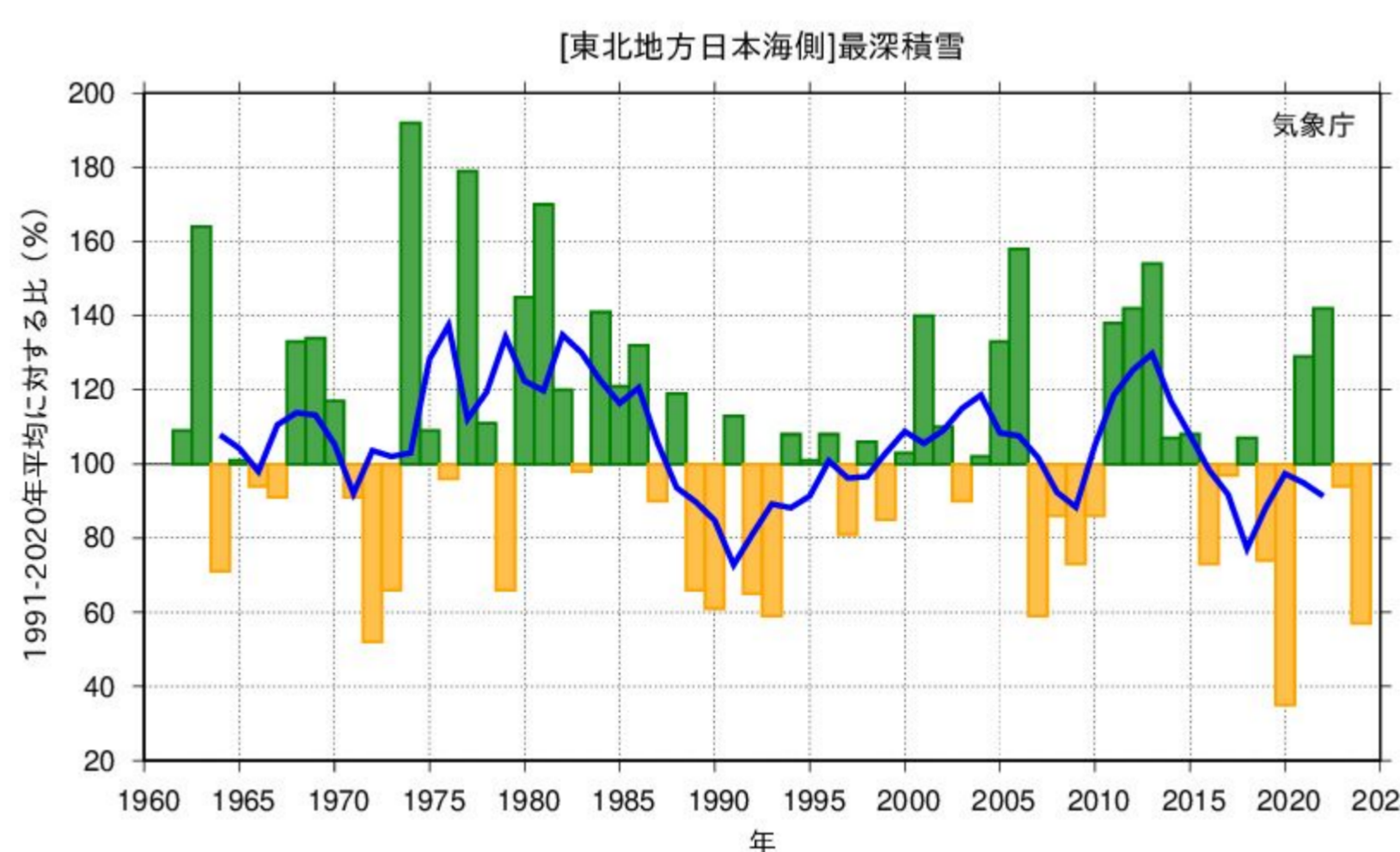
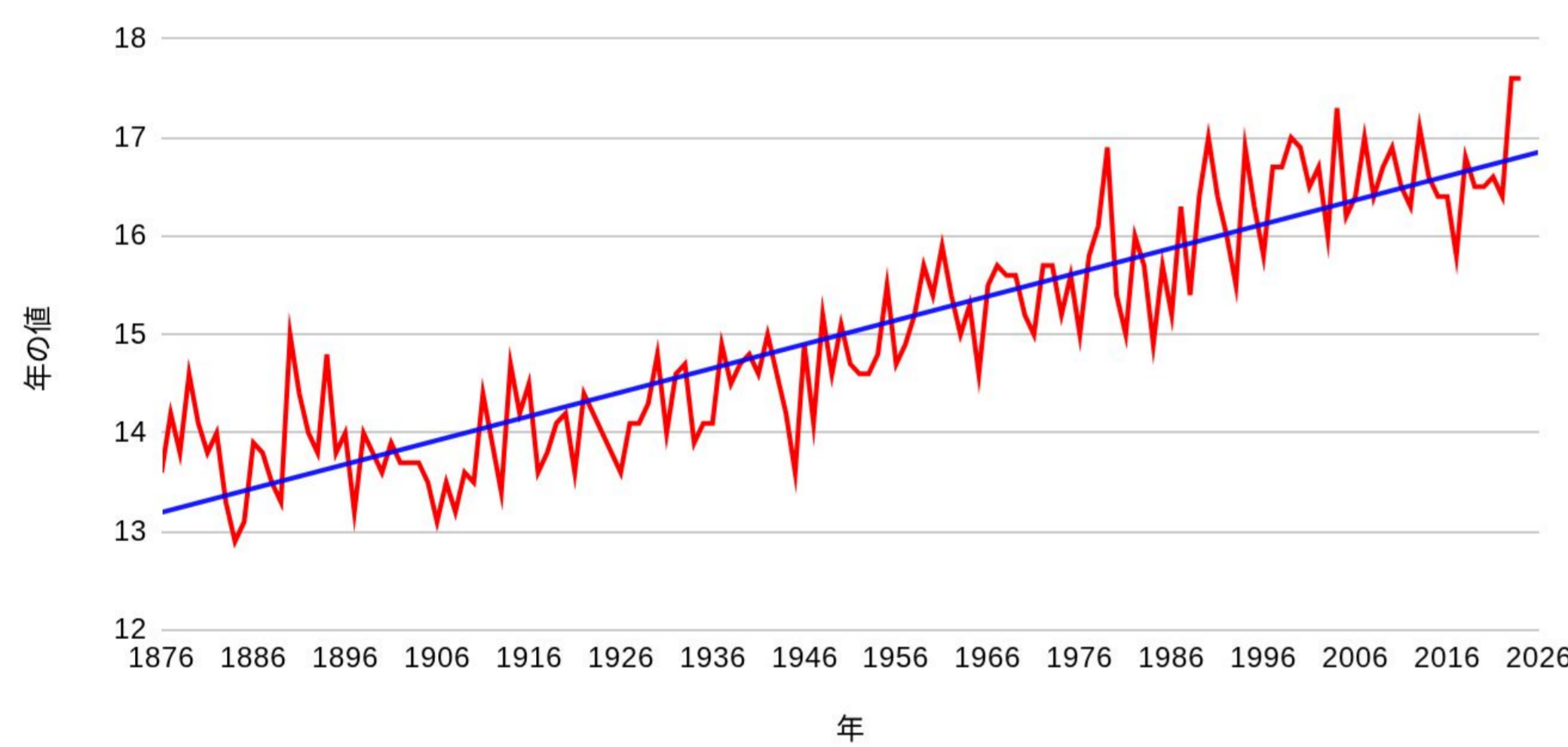
- ・日本のニホンジカの個体数は、近年人為的な捕獲の強化

右のグラフから鹿の生息域が広がっている

要因

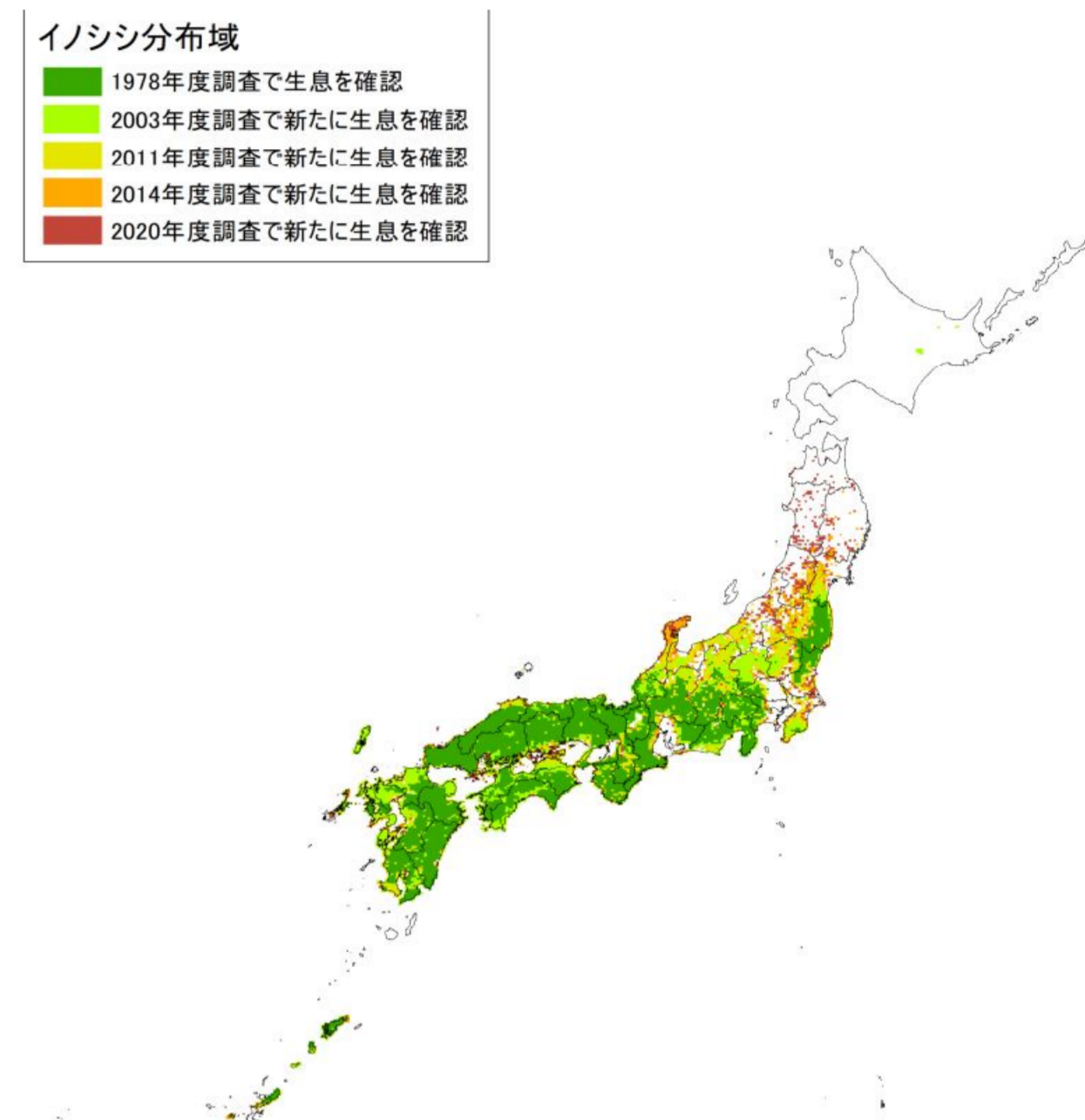
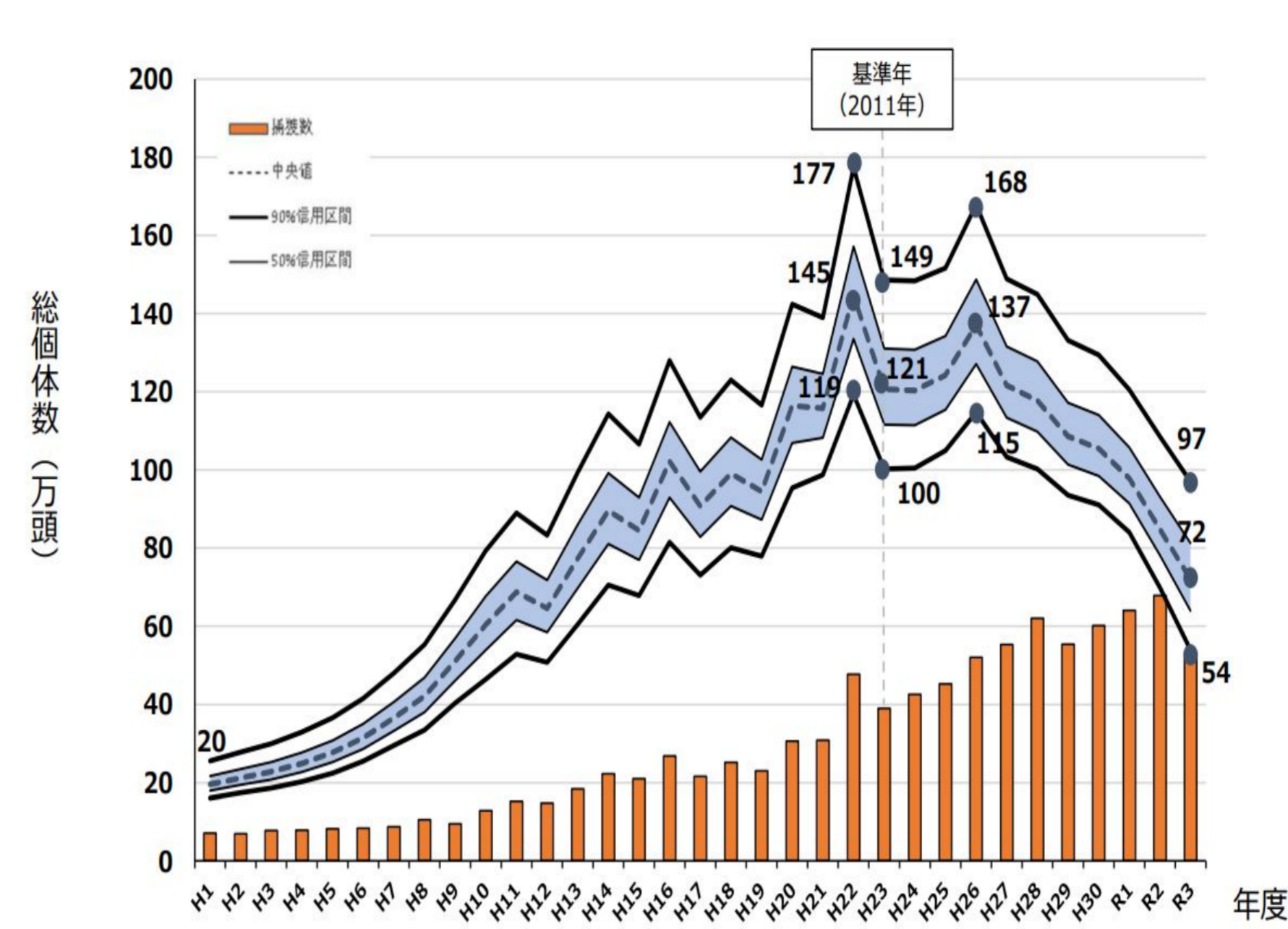
ニホンオオカミの絶滅で鹿は天敵がなくなり、個体数が増加したことで東北まで生息域を拡大したことが考えられる。

東京の各年平均気温 (1876~2025)



回帰直線で表してもわかるように各年平均気温の変化が年々増加傾向にあると言える。また、それに加え積雪量についても温暖化の影響を受けているのではないかと考えられる。

イノシシ



- ・左のグラフからイノシシの個体数がH1からH26まで増え、H26からR3まで減少傾向にある
- ・右のグラフからイノシシの生息域が北上している

要因

・地球温暖化を一部の要因として東北地方の積雪量が減り イノシシ生活可能な環境が広がった事により個体数が増え 東北地方まで生息域が北上している。

- ・ニホンオオカミの絶滅で天敵が減ったことも、(地球温暖化以外の)増加要因として考えられる
- ・個体数が減少傾向にあるのは豚熱豚コレラのまん延したため
⇒イノシシの個体数の増加の要因のすべてが地球温暖化というわけではないが地球温暖化は一部増加の要因に関与している。

結論

環境省および気象庁の公開データを用いて、気温が動物の生息数と分布域に与える影響を調査した。その結果、これらの野生動物は近年増加傾向にあり、生息域が北方向へ拡大していることが確認された。

考察

生息数の増加や分布域の北上は、温暖化による気温の上昇やそれによる降雪量の変化によって動物たちを取り巻く生息環境が変化したことが原因の一つではないかと考えられる。ただし、狩猟者数の減少、天敵の消滅、種の保存の観点の拡大など他の要因も影響している可能性があり、複数の要因を考慮する必要がある。今後の展望としてはシカとイノシシに絞ったが他の生き物にはどのような影響が出ているのかなどを探求したい。

参考文献